

第2回 第6次村山市総合計画策定審議会

日時：令和6年8月6日（火）

午後6時30分

場所：農村環境改善センター

2F 多目的ホール

次 第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

(1) 第5次村山市総合計画の検証結果について

(2) 第6次村山市総合計画骨子（案）について

(3) その他

4. 閉 会

■ 第5次村山市総合計画検証結果

基本目標1	だれもが“暮らしたい”まち
個別政策1	“住みたい・住み続けたい”まち
成果指標	目標以上・・・3 (27.3%)、達成・・・3 (27.3%)、未達成・・・5 (45.4%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマザワ駅西店の敷地内にファストフード店、河西地区にドラッグストアが outlets し、地域住民の利便性が向上した。 ・子育て応援定住促進事業補助金は令和2年度から令和5年度まで266件の実績があり、定住促進につながった。 ・駅西エリア開発に伴う市道整備が確実に推進されている。 ・災害時に使用できる応急給水拠点の整備が図られた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き駅西エリアの開発を進行し生活利便性の向上を図っていく。 ・移住定住促進策として「就業者居住促進事業補助金」や「子育て応援定住促進補助金」制度の継続と拡充。 ・空き家バンクの運営と啓発に努め、空き家を増加させない取り組みを行う。 ・「新道の駅」整備に向けて引き続き駅西エリア内の市道等の整備を行う。 ・持続可能な除排雪体制の確保に努める。
個別政策2	「子どもがすこやかに育つ」まち
成果指標	目標以上・・・2 (33.3%)、達成・・・1 (16.7%)、未達成・・・3 (50.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・河西地区の3園を統合し「はやま認定こども園」を開園。 ・母子保健分野の子育て世代包括支援センターと一体化した「こども家庭センター」を組織化した。 ・障がい児やその家族が参加できる各種教室を開催し、障がい児の活動の機会を増やした。 ・GOGO むらやま夢体験塾を開催し、地域の素材に対する体験から郷土愛を育んだ。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設について児童数の減少や学校の統廃合のタイミング、施設の老朽化を勘案し、今後の運営方針について検討が必要。 ・こども家庭センター内の情報共有と、切れ目のない相談体制によりケースに合わせた支援を継続する。 ・広域的な婚活イベントに積極的に参加を促し、さらなる出会いの場を創出する。
個別政策3	「具体的なすがたがみえる」まち
成果指標	目標以上・・・0 (0.0%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・3 (100.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・楯岡高校跡地の利活用について令和4年7月に Link MURAYAMA として新たにオープンし、令和5年には利用者数10万人を達成した。 ・都市再生整備計画を策定し、都市計画道路楯岡東根温泉線整備を進めるとともに県道尾花沢関山線の整備事業に着手した。 ・次世代まちづくり開発促進事業補助金を活用し、民間による宅地造成、分譲が進められた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいの創出のため、Link MURAYAMA 等を活用しやすいよう周辺市街地からのアクセスをよくするため道路整備を継続して進める。 ・新「道の駅むらやま」整備基本計画に基づき令和11年度の開業に向けて事業を推進する。 ・湯野沢南原工業団地（仮称）の整備に向け農村産業法実施計画を策定し事業を進める。

基本目標 2	「つながる」産業振興
個別政策 1	魅力ある農林業の振興
成果指標	目標以上・・・2 (33.3%)、達成・・・2 (33.3%)、未達成・・・2 (33.3%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・大区画圃場の整備を行い、担い手への農地の集積、集約化が図られた。 ・令和2年からの5年間で50名以上が新規就農し、農地の新たな引き受け手や法人の雇用者となった。 ・林道湯舟沢五十沢線開設事業が令和2年度完了した。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大区画圃場等農業基盤整備の促進による大規模経営への転換。 ・直近の5年間で高齢化と農事組合法人設立等により認定農業者が56名減少した。215名の認定農業者のうち70歳以上が86名(4割)となっており、農家の高齢化、後継者不足による農地の耕作放棄、農業収入の減少が懸念される。 ・スマート農業技術の活用促進を含めた経営の効率化、重点作物を中心とした高収益作物の取組みなどの検討が必要。
個別政策 2	継続して成長する工業の振興
成果指標	目標以上・・・1 (33.3%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・2 (66.7%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・企業支援コーディネーター制度により2名を配置し企業の経営課題解決に対応した。 ・次世代イノベーション創出支援として、企業のDXを支援するための補助金を制定した。 ・市内の空き店舗を活用し市内企業が第二工場を立地した。企業立地補助金の活用が16件あった。 ・令和2年から令和5年までに製造業について10社ほど事業継承を行った。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業のコーディネートのほか県外企業とのマッチングへの取組み。 ・村山産業高校から市内企業への就職につながる事業の検討。 ・若者の地元定着・地元回帰は非常に難しい状況であり、高校生からでなく小・中学生から地元企業に興味を持ってもらうような取り組みを推進していく。
個別政策 3	地域に根ざす商業の振興
成果指標	目標以上・・・0 (0.0%)、達成・・・1 (50.0%)、未達成・・・1 (50.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響により経営に苦勞した事業者が多かったが、市と商工会が連携・協力し、安定経営のための支援ができた。 ・起業・創業について、商工会と連携しながら希望者のニーズに合わせた情報提供を行った。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・楯岡商店街を中心に、経営者の高齢化に加え後継者がいない店舗が増加している。空き店舗も目立つ状況にあり、個々の店舗だけでなく一体的なビジョンを考えていく必要がある。 ・起業・創業したもののその後の状況が不明であり、継続した状況把握が必要。
個別政策 4	連携から生まれる新たな産業
成果指標	目標以上・・・2 (66.7%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・1 (33.3%)
主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に必要とされる加工施設整備や機器の導入が促進された。 ・市内産直施設を対象に「むらやま産直連絡会議研修会」のほか農業体験プログラムを実施した
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に必要とされる加工施設整備や機器の導入への支援に加え、重点作物を活用した商品開発への支援も必要。 ・魅力ある産直施設を設置するため市内産直施設のネットワーク化と情報交換などを開催する。

基本目標 3	9 1 3 万人のファンづくり
個別政策 1	主要観光スポットのエリア化
成果指標	目標以上・・・0 (0.0%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・4 (100.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・東沢バラ公園については香りのバラという特色づけをし、新たな PR ができるようになった。 ・バラまつりについては、新たなイベントを行うことにより、若い世代の誘客が図られた。 ・グランピング施設「yamagata glam」が開業し、新たな客層の誘客が図られた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き東沢公園と周辺の一体的な取り組みが必要。 ・バラ公園に来た人がどんなものを求めているのか、来園者に対する調査を行いその結果を基に今後の施策検討が必要。 ・最上川三難所エリアとして一体的な誘客を図っていく必要がある。
個別政策 2	3 6 5 日の観光キャンペーン
成果指標	目標以上・・・2 (100.0%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・0 (0.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせ、SNS を活用しながら PR を行ってきた。 ・特産であるジュンサイや居合道を活かしたイベント実施により、多くの観光客を呼び込み着地型観光の推進を図ることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・観光 PR には今後も SNS の活用は欠かせないが、どのように活用するのかもっと具体的・戦略的に進める必要がある。 ・外国人に対しても、居合道に来た後に市内で回遊し観光できるような仕組みを強化していく必要がある。
個別政策 3	観光インフラの整備
成果指標	目標以上・・・1 (50.0%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・1 (50.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックのほか LINE を使った PR を実施し、特に若い世代への周知を図ったことで、ある程度の年齢層の若返りが図られた。 ・空き家を活用した宿泊施設 3 軒に補助を出し、市内宿泊施設は 10 軒に増加した。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなるインバウンド対応と、どういう人をターゲットにどういう PR をしていくのか検討が必要。 ・観光シーズン（6～8 月）以外の観光誘客をどうするかが課題。

基本目標 4	いのち輝き、ふるさとを愛する人を育むあたたかいまち
個別政策 1	「大好き村山」の心を育む教育の充実
成果指標	目標以上・・・1 (14.3%)、達成・・・2 (28.6%)、未達成・・・4 (57.1%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな場所に教育支援センターを設置し、児童生徒の支援体制を強化した結果、多くの児童生徒の受け入れ場所となった。 ・国際キッズ事業の継続実施や算数・数学を中心とした授業改善を行い、学力向上のためのきめ細やかな支援事業を推進した。 ・児童生徒への教育を充実させるため、学校事務補助員等の学校への配置や部活動地域移行検討により、教員の働き方改革を推進した。 ・ホストタウン事業において、事前キャンプから事後市民交流まで予定していた事業を達成できた。 ・小学校在り方検討会や未来スクール構想会議、小学校統合計画策定委員会を設置し令和6年5月に小学校統合計画を策定した。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・G O G Oむらやま夢大学・夢体験塾について、これからどのように周知・参加、魅力ある内容にするか検討が必要。 ・生涯スポーツや競技スポーツにおいて、運営体制の構築や会場等の整備も視野に入れ、多方面に渡り検討する必要がある。 ・令和6年5月策定した小学校統合計画に基づき、市内の学校の統合を進める。 ・小学校の統合により学校と地域をコーディネートする人材の育成が課題。
個別政策 2	支え合い、心通う地域福祉の実現
成果指標	目標以上・・・1 (20.0%)、達成・・・1 (20.0%)、未達成・・・3 (60.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員の充足率は100パーセントを継続しており、老人クラブには活性化に向けて補助金の増額を行い活動の活性化を図ってきた。 ・「成年後見センター」を社会福祉協議会内に設置し周知や利用促進が図られている。 ・災害時要配慮者の支援について災害時避難行動要支援対象者名簿を作成した。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員は高齢化と、なり手不足が懸念され、高齢化著しい地域では委員選出が難しくなっている。現役で仕事を持つ委員も増えており会合の運営や活動について工夫が必要。 ・災害時避難行動要支援対象者名簿の活用をどのように進めるか検討が必要。
個別政策 3	健やかに暮らせる保健の充実
成果指標	目標以上・・・1 (25.0%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・3 (75.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣の獲得と継続のため「健幸ポイント事業」を実施し活動量計というツールを利用し無関心層・若年層からの参加を得ることができた。 ・官民連携のメディカルフィットネスがリンクむらやまに開設、市内3か所に体組成計が設置され、ハード面での環境の整備も図られた。 ・様々な分野や各事業において、保健・医療・福祉の連携が行われ、強化が図られている。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を継続していくためには、「運動できる場」の設定も大切であり、誰でも気軽に参加できる運動教室や個人でも取り組みを続けていけるようなウォーキングコース・マップなどの整備が必要。 ・ハイリスク者支援として受診勧奨の継続。 ・子ども子育て支援事業計画のためのニーズ調査の結果を今後の環境整備に活用していく。

個別政策 4	豊かな自然環境との共生
成果指標	目標以上・・・0 (0.0%)、達成・・・1 (20.0%)、未達成・・・4 (80.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度実績で温室効果ガス排出量15%削減の目標を達成。 ・有害鳥獣対策実施隊による見回りやモデル事業の活用により農作物被害の軽減が図られた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校や公共施設へのエアコン設置状況や電気需給契約内容を今後も注視していく。 ・環境パトロールを継続し不法焼却防止啓発と不法投棄防止啓発を図る必要がある。
個別政策 5	人命を守る体制の強化
成果指標	目標以上・・・4 (66.7%)、達成・・・0 (0.0%)、未達成・・・2 (33.3%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災力向上のため、地域専門員を中心に防災士の資格取得を推進した。 ・防災施設等の整備促進として、防災行政無線のほか新たに固定電話やFAX、SNSへ配信し迅速な情報伝達が図られた。 ・車両や資機材の更新や配備を行い消防力の強化、災害時の迅速な対応が可能となった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・固定電話やFAXへの配信登録者数を増やし、すべての市民に情報伝達が図られるよう努める。 ・老朽化した消防庁舎の整備を行い災害拠点としての機能及び災害対応の強化を早期に図る必要がある。 ・高齢者の運転免許自主返納後の支援と安全に移動できる手段の検討が必要。

基本目標 5	みんなが参画、みんなで作る
個別政策 1	市民がつくる村山市の未来
成果指標	目標以上・・・1 (20.0%)、達成・・・0 (0.00%)、未達成・・・4 (80.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域まちづくり協議会に対し、交付金を交付し各地域の特色を活かした各種活動の維持・発展が図られた。 ・LINE の導入により、広くタイムリーな情報発信ができた。「友だち」登録者数も伸びている。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化に伴う人口減少は、各地域における組織の縮小化にもつながり、担い手不足によるコミュニティ活動の継続に係る対応や工夫が必要である。 ・情報発信の手段として SNS の活用は大変有効であるが、一方で高齢者などなかなか使えない方もいることから情報格差が広がっている所以对策を講じる必要がある。
個別政策 2	市民目線に立った行財政改革
成果指標	目標以上・・・3 (75.0%)、達成・・・1 (25.0%)、未達成・・・0 (0.0%)
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生成 AI の導入により業務効率化が図られた。 ・ふるさと納税の令和 5 年度寄付額が 22 億 5 千万円を達成した。 ・システム等の更新を行い、業務の効率化や経費の削減を図ることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・住民サービス向上のため、窓口 BPR 等の業務改善を進めていく必要がある。 ・ふるさと納税について、引き続き、寄付額増のための取組みにあわせて、村山市の魅力発信を強化していく。 ・引き続き、「公共施設等総合管理計画」に基づき、各施設の方向性を踏まえながら集約化や除却等を推進し、市全体の総量管理と最適化を図る必要がある。 ・急速な社会変化に対応するため、「村山市 DX 推進計画」に基づき、行政サービスの DX 推進と内部事務の DX 推進を着実に進めていく必要がある。

第6次村山市総合計画の基本目標の設定について（案）

第5次計画後期基本計画

【基本目標1】だれもが“暮らしたい”まち
(定住促進)

- ①“住みたい・住み続けたい”まち(達成度B:92%)
- ②“子どもがすこやかに育つ”まち
(達成度A:7%、B:93%)
- ③“具体的なすがたがみえる”まち
(達成度A:11%、B:56%)

【基本目標2】「つながる」産業振興
～農商工連携の強化～(産業振興)

- ①魅力ある農林業の振興(達成度A:10%、B:70%)
- ②継続して成長する工業の振興
(達成度A:11%、B:56%)
- ③地域に根ざす商業の振興(達成度A:43%、B:57%)
- ④連携から生まれる新たな産業(達成度B:100%)

【基本目標3】913万人のファンづくり

- ～市民ひとりひとりが一日一人の村山市ファン
づくり(2.5万人×365日)～(観光交流)
- ①主要観光スポットのエリア化(達成度B:60%)
- ②365日の観光キャンペーン(達成度B:100%)
- ③観光インフラの整備(達成度B:100%)

【基本目標4】いのち輝き、ふるさとを愛する
人を育むあたたかいまち
(健康・保健・福祉・環境・防災)

- ①「大好き村山」の心を育む教育の充実
(達成度B:88%)
- ②支え合い、心通う地域福祉の実現(達成度B:100%)
- ③健やかに暮らせる保健の充実
(達成度A:10%、B:90%)
- ④豊かな自然環境との共生(達成度A:15%、B:85%)
- ⑤人命を守る体制の強化(達成度A:23%、B:69%)

【基本目標5】みんなが参画、みんなで創造
(市民協働・行財政改革)

- ①市民がつくる村山市の未来(達成度B:100%)
- ②市民目線に立った行財政改革
(達成度A:11%、B:78%)

経済・社会動向

- ・人口減少・少子高齢化のさらなる進行
- ・多様化するリスク(災害、感染症、経済)
- ・デジタル技術革新の急激な進展
- ・脱炭素社会(カーボンニュートラル)の推進
- ・SDGs(持続可能な開発目標)の推進

基礎データ

- 令和2年(2020年)の人口は22,516人、世帯数は7,579世帯。自然動態・社会動態ともに減少
- 年少人口(0～14歳)2,193人(9.7%)、生産年齢人口(15～64歳)11,415人(50.7%)、老年人口(65歳以上)8,908人(39.6%)で高齢化進行。出生率低く流出人口割合高い
- 就業者数は平成12年(2000年)から減少。令和2年(2020年)11,715人で第3次産業がほぼ半数。農業産出額・製造品出荷額・年間商品販売額等は減少傾向
- 保育施設等は10箇所、小中学校は9校で児童数・生徒数は減少
- 療養費は概ね横ばい。高齢年金支給件数は減少、支給額は増加
- 住宅数は約6,200戸前後で推移するも空き家が増加
- 最上川沿川で洪水浸水想定区域、山間部で土砂災害危険区域が指定
- 村山IC開通による広域交通条件の向上

市民意識調査

- 村山市の住みよさ(「たいへん住みよい」+「住みよい」)
⇒ 一般市民：47.1% 16-18歳：44.9%
- 村山市のまちづくりの取り組みについての総合的な満足度(「満足」+「どちらかといえば満足」)
⇒ 一般市民：36.5% 16-18歳：38.0%
- 将来なればよいと思う“まち”
⇒ 一般市民：便利で快適な暮らしができるまち(48.6%)
16-18歳：便利で快適な暮らしができるまち(65.8%)

第6次計画づくりに向けた課題の認識

▶定住促進のための受け皿づくり

- ・各種移住、定住支援策の充実
- ・空家活用、宅地造成の促進
- ・子育て世代への支援策の充実
- ・世代間交流の推進 等

▶安心して暮らせる生活環境整備

- ・村山IC開通を活かした新道の駅整備と駅西エリアの開発促進
- ・湯野沢南原工業団地(仮称)の整備促進
- ・防災体制の整備
- ・脱炭素社会構築に向けた取り組み推進 等

▶地域の活力を生み出す産業振興

- ・商工業におけるDX化と雇用確保
- ・大区画圃場等農業基盤整備の促進
- ・6次産業化や異業種交流の促進
- ・東沢公園や最上川三難所エリア等の観光拠点性の向上
- ・インバウンドを含めた着地型観光の推進 等

▶健やかに優しい暮らしづくり

- ・すべての市民の健康づくりの推進
- ・地域医療体制の充実
- ・高齢者福祉の充実
- ・各種福祉支援活動の担い手確保
- ・医療と介護の連携体制の充実

▶まちの未来を担う人材育成

- ・確かな学力を身に着ける教育環境の充実
- ・郷土愛を育む教育といのち教育の推進
- ・学校統合の推進と統合後の施設利活用の検討
- ・社会教育施設の集約化
- ・競技スポーツと生涯スポーツの推進

▶持続可能な地域・行財政運営

- ・各地域におけるコミュニティ活動の継続
- ・新たな地域の担い手づくり
- ・持続可能な行財政運営の推進
- ・行政サービスにおけるDX推進

基本目標(案)

基本目標1

定住促進／子育て支援

基本目標2

まちづくり／防災減災

基本目標3

産業／観光振興

基本目標4

健康／福祉

基本目標5

教育／文化／スポーツ

基本目標6

協働／行財政改革

※これまでの達成度ランク
A：予定以上達成できた B：予定通り達成できた
C：あまり達成できなかった D：ほとんどできなかった

第6次村山市総合計画 骨子案

1. 総論

- (1) 総合計画の位置づけ・構成・期間
- (2) 村山市の現状
- (3) 計画策定の背景、村山市の課題

2. 基本構想

- (1) まちづくりのコンセプト（基本理念）
- (2) 基本目標
 - 6つのカテゴリーで設定
- (3) 将来の目標人口
- (4) 施策の大綱
 - 基本目標と個別政策
- (5) 土地利用

3. 基本計画

- (1) 施策体系図
- (2) 重点プロジェクト
- (3) 基本目標（カテゴリー）
 - 第1章「定住促進・子育て支援関連」
 - 第2章「まちづくり・防災減災関連」
 - 第3章「産業、観光振興関連」
 - 第4章「健康・福祉関連」
 - 第5章「教育・文化スポーツ関連」
 - 第6章「協働、行財政改革関連」

4. デジタル田園都市国家構想村山市総合戦略

- (1) 基本方針
- (2) 基本目標と具体的施策
 - 基本計画から具体的に抽出した3～4つ程度の目標を設定
 - 基本計画に関連した具体的施策を抽出

5. 資料編

- ・参考指標
- ・市民アンケート結果（一般・高校生）
- ・関連組織名簿
- ・計画策定の経過

■施策体系図（新旧比較）

第5次総合計画

<基本理念>

次の世代へ引き継ぐ魅力ある村山市を創る

- ・「ほどよい田舎」の美観を守るまち
- ・ふる里に帰ってきたような"おかえり""ただいま"が響くまち
- ・生活するのに便利で、しっかりした都市基盤を有するまち
- ・若者や子どもの声が届くまち
- ・「GOGO!夢体験プラン」による充実した教育のまち

<基本目標>

定住促進	だれもが"暮らしたい"まち
産業振興	「つながる」産業振興 ～手と手をとって未来へ歩む～
観光交流	913万人のファンづくり ～市民ひとりひとりが1日1人の村山市ファンづくり(2.5万人×365日)～
教育・保健・福祉・ 環境・防災	いのち輝き、ふるさとを愛する人を育むあたたかいまち
市民協働・ 行財政改革	みんなが参画、みんなで作る



第6次総合計画

<基本理念>

(仮) 次の世代に引き継ぎ・受け継ぐ魅力あるまち

～ 審議会の中で議論 ～

<基本目標>

定住促進 子育て支援	・各部会、作業部会の中で原案作成 ・策定委員会、審議会で議論
まちづくり 防災減災	
産業、観光振興	
健康、福祉	
教育、文化スポーツ	
協働、行財政改革	